

京都国立博物館の概要

日本が文明開花を経験したころ、1897年に京都国立博物館が開館されました。博物館の一般的なコンセプトは、日本の伝統文化を覆そうする西洋化の大きな流れの産物でした。政府がこのような施設を運営すべきという概念は、お寺や神社に神聖な宝物として保存されていた美術品や装飾品を美的鑑賞の対象として扱うことができるという考えと同様、まだ新しいものでした。すぐに、国宝として重要な作品の指定も採択されました。これらの一般的な考え方の変化は、博物館の創造の根底にあります。

この初期の段階で、京都国立博物館は、日本で唯一の国立博物館の1つとなり、東京国立博物館と奈良国立博物館に共通する特徴がありました。最初の使命は比較的シンプルなものでした。京都とその周辺の寺院や神社で見つかった伝統的な作品を保護することです。京都および全国の多くの寺院は、1868年の明治維新後の社会の再編により経済的支援の基盤を失い、明治初期に激化した廃仏毀釈から大きな打撃を受けました。

1世紀以上にわたり、博物館は一般に公開できる芸術作品を収集、保存、および保存してきました。